

道標ない旅

自分も人も大切に
～思いやり
・チャレンジ
・しなやかな心～



令和3年度 第29号
2021.12.1発行
葉山町立長柄小学校
校長 益田孝彦
Tel. 046-875-6860
Fax. 046-876-0682

<http://www.town.hayama.lg.jp/nagae>

◆◆ 第2回学校評議員会兼学校関係者評価委員会の報告の続きです。 パート2 ◆◆

皆様からのアンケート結果等をもとにして、学校運営方針である

- (1) 新しい時代に必要な資質・能力を育む学校
- (2) 豊かな心を育み、信頼で繋がった学校
- (3) 地域を愛し、地域から愛される学校

と、(4) いじめ防止に向けた対策について、その成果についての検証を行っていただきました。

その結果をパート2として(3)(4)を中心に、紹介します。

重点目標3. 地域を愛し、地域から愛される学校

【自己評価結果】

保護者からの重点目標3に対する評価は、全般的に大いに向上していると評価できる。参観日等がなく、概して学校の様子は分かりにくいのが本音であると思うが、学校からの情報公開がいくらかでもその判断につながっていると考えられる。

一方、教師側は「学級便りの発行、中身の充実といった点」で課題を感じていたり、地域資源や外部人材・講師等の活用が、十分できていないと感じたりして、コロナ禍での工夫に課題を感じていることが伝わってくる結果となった。いよいよコミュニティ・スクールの開校が迫っている。教職員・保護者に、よく見えていく形で準備を進めていきたいと思う。



【学校関係者評価結果】

- ・保護者は良い印象で受け止めているが、教職員はそうで無い項目も見られる。保護者は、この「コロナ禍でも」という前提で考えると、学校が良くやってくれているという評価をしているのだと思う。
- ・メール配信で細やかに情報提供頂いていることが、かなり安心感につながっていると思う。
- ・コロナ禍でも活動できていない地域の実態を考えても、コロナ禍における学校運営としては良くやっていると判断されていると考える。
- ・若宮陶器の前の横断歩道を、児童が左右確認せずに飛び出すので危ないと、南郷中学校教職員が、是非伝えてほしいと要望された。土砂災害の中学校が一斉下校の日も、その実態が気になったとのことであった。→車の状況が見通せてしまうからだとしても、自転車や、見えない路地からの車の出入りもあり、やはり注意喚起が必要だろう。
- ・御霊神社～笠原商店にガードレールを要望される自由記述意見112がある。→普通学路は内側の道であった。→ガードレールは南郷中自転車通学の関係で設置できない。児童は守れるが、生徒の自転車事故は多発するだろう。→地域の方に通学路について聞いてみる必要があるだろう。

重点項目4. いじめ防止に向けた対策

【自己評価結果】

この項目でも、保護者の方々の全般的な評価の向上が目まぐるしく。特に、「教師のいじめを許さない姿勢」に対し、3.57と言う高い評価を頂いたことは、嬉しい以上に、今後落とすことのできない数値目標と考えていきたい。鍵となる「小さな変化でも教師間の情報共有」に教師が意識できている状況を継続維持していきたい。

いじめの「早期発見・早期対応」については200名近くの保護者の方が、「分からないF」を選んでいる。学校の対策について広報が必要と思う。また、40～50名ほどの児童・保護者は、本校のいじめ対応にC・Dという批判的な思いを持っていられることを肝に銘じて、いじめ問題にあたっていきたい。



【学校関係者評価結果】

- ・「小さな変化の情報共有」教職員3.60と高い。保護者は向上しているが3.20なので、その差が少し気になった。→この項目で、保護者の方々から3.60近くの数字をいただくのはすごく難しい。分からないとしている保護者の方々も200名近くいる。→自分の苦しさを親にも言えない子もいるであろうし、確かに難しいが、気がついていかなければならない。
- ・いじめのキーワードでくくっているが、重点目標の2番にあるように、「一人ひとりのちがいを」について認められずに不安になり、CD評価の子がいる。その子が先生やクラスの子にどう映っているのか気になる。きっと孤立感に結びついているのであろう。クラス経営の中ですくい取ってほしい。

- ・「集団」という言葉もあるが、「一人」の良さにも気づいてほしい。小集団での育ちを大切にしてほしいと願う保護者の方々もいる。「一人」でもいられる価値観を持ってくれば良いと思う。→教師は「みんな」でというくくりで努力しがちなので、評価委員の方の中に、「一人」の良さに気づかせてほしいという考えがあることを知ればとても勉強になると思う。
- ・「小学生あるある」だなど思うのだが、名前をからかわれたり、容姿や服装など、やっぱり人と違うことを突っつかれる。小学生の普通の思いかも知れませんが、先生がそのことに気づいて、「違っていいんだよ」と助言してほしい。
- ・難しい時代と感じているのだが、「男らしい、女らしい」と言うてはいけない時代になったと言われるが、言うてはいけないのかなあと仲間と話したことがある。その主旨も分かるのだが、難しさを感じる。→言うても良いときがある。それが及ぼす観点が何なのかが重要。→道徳でもその扱いを学ぶ時代。例えば女子のズボン制服は全く普通になっている。色々な立場の方に配慮できる人材を育てていかなければいけない。

◆◆ 御霊神社～長柄下町内会館の南郷中通学路の「ガードレール」設置問題について ◆◆

保護者の自由記述にあった「千葉での交通事故をうけて、通学路にガードレールを設置して欲しい」という内容について、お答えします。事故直後に町の担当課や、葉山署、県土木の関係職員と本校管理職が、地域の状況の再確認を行いました。長柄交差点～長柄下町内会館までは、道幅が狭く、設置は難しい（車輛のすれ違いが困難になる）と判断されます。課題は、児童通学者の利用が多い、「御霊神社～笠原商店」までの通学路に絞られます。ここへのガードレールの設置は検討課題とはなりました。しかし、「南郷中学校への自転車通学者」が通学路としている事情から設置は難しい状況にあります。長柄小学校児童は守れることになるとは思いますが、車輛と自転車の事故の可能性が非常に高まることが予想されます。車輛が接触を避けるために退避するスペースがなくなるから危険な状況が生まれやすくなります。それ故、設置は見送られました。ご理解頂けるでしょうか？

この問題を学校関係者評価委員会に伝えたときに、「かつて御霊神社～若宮陶器付近の通学路は一本内側の道だった」というご指摘がありました。いつから変わったのかも分かりませんし、そこに戻すには、お住まいの地域の方々に十分ご理解を得ていかなければなりません。今は静穏な道だけに、大きな声を出しながらの登下校や、迷惑行為はもつてのほかですし、児童の自主性を含めた学校側の決意もしっかりと固められなければ、話を進めるわけにもいきません。

今言えることは、ガードレールは設置しないという判断が、千葉の事故を踏まえたあとの調査において、すでにされているという事実を知っておいて欲しいということです。何卒ご理解のほどお願い致します。

◆◆ 学校下歩道橋からローソン方面に続く逗葉新道脇の歩道は、自転車も通行指定された歩道です。 ◆◆

22日、児童が道いっぱい広がって登下校することでお困りの方から、抗議のお電話をいただきました。もつともなことです。広がるのではなく、常に自転車が通れるように縦列で歩くよう指導しました。

◇◇ 今の教育に求められていることとは・・・長柄小学校が目指す「育む教育」とは ◇◇

先日の学校関係者評価委員会にて、「新しい時代」への理解を深めるため、学校だよりで「キーワード」についてコラム等で解説して欲しいといったコメントがありました。今日はその第1弾。

長柄小学校の教員は、新しい時代の学力を育てるため「教える授業」から「育む授業」への授業改善を目指しています。この「育む授業」とはどんなイメージなのかを「どんな人を育てようとしているか」という視点で簡単にご説明します。

「どんな人」の中身を語れば、学校教育目標である「自分も人も大切にできる、思いやりとチャレンジ精神としなやかな心（変化に対応できる柔軟性）」を備えた人物に育てたいという話になってしまいますが、ここではそういう意味でなく、今の教育が目指す、分かりやすいモデル（イメージ）を伝えたいと思います。（※以下、あくまでも校長が持っているイメージで説明するもので、教育界や長柄小学校の公式見解ではありません。）

今までの教育は、バブルがはじけてからはモデルを見失っている傾向にありましたが、大量生産大量消費といった日本の絶頂期を迎えていた時代の教育「勤勉で真面目に働く労働者（労働力）」を作っていたら基本的には間違っていないでした。管理者側に回る人を知るには「記憶力」の優れた人が分かれば良いし、労働者は「疑問に思わず真面目に働けばいい」ので、そんな社会のニーズに応えることが、ある意味での教育の役目でした。

今は、全く違います。記憶力はAI（人工知能）に取って代わられました。労働力もAIが動かす機械に取って代われ、多くの職業が失われようとしています。教育の目標も、今まであまり求められたことのなかった、「経営者」目線が求められているのです。「どうすれば改善するのか」「どうすれば売上げが上がるのか」「どう表現すれば機械以上の魅力的な表現になるのか」「どうすれば仲間を集められるのか」といった「起業家」の視点で物事を深く考えられる人を育てることが、今の教育の目指すところなのです。最近では大学生など若い方が沢山起業するようになってきていますが、まさに時代の新しい流れの一つだと思います。

「育む教育」に戻ると、「起業家・経営者」を育てるには、「思考・判断・表現」や「学びに向かう力・人間性」を大切に考えていけるように、育てていかなければならないと考えます。「教える」ことだけでは足りません。本人に「思考力や判断力、表現力や人間性が備わっていくように」育んでいくことが求められると考えているのです。そのことをして、「育む教育」という表現で目標化させて頂いているのです。